



↑続々と会場につめかける人々



↑県政相談では、係員が熱心に説明……



↑にぎわった健康相談



↑沢田副知事も出席して座談会も……



↑来場者の声は全国放送へ……



↑奥さん方に好評の栄養料理講習会



←県広報車りんどう号も海を渡って広報にひと役……

施設めぐり

とる漁業から「つくる漁業」へ

成果をあげる人工養殖

熊本市水産試験場



装備を誇る指導船

天草の海の支那本渡市の海岸に、若北町富岡から今年の二月に移転してきた熊本県水産試験場は、地の利を得ていま「とる漁業」から「つくる漁業」へと転換し、試験研究と指導に着手と成果をあげている。

試験指導船「ひのくに」(三十トン)も竣工して近代装備を誇っている。なかでも、漁群探知機、ローラン、無線電話等は業界でも第一級のシロモノ。

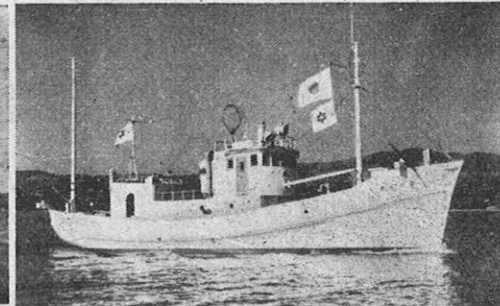
遠く北は対馬海域、南は薩南海域、西は東支那海への海洋調査や漁群探知に出勤し、近海漁業不振の打開策に奔走している。(下の写真が「ひのくに」)

タコの人工孵化も

機構は庶務と技術の二つの係に分かれて、牛深、八代、人吉に分場を設けている。

この技術係には養殖、加工、漁撈の三つの部門があり「養殖部門」では困難とされていたワカメの人工養殖に成功し、先般科学技術庁長官及び知事から表彰された。(下の写真が人工養殖ワカメ)

いまはオゴノリ(寒天の原料)の人工培養、タコやエビの人工



孵化と養殖の研究にも力を注いでいる。「加工部門」では、人工ワカメの加工を研究していたが、このほど「モミワカメ」「味付ワカメ」の試作品も完成。また、あまり加工されていないイカ、タコ、フグ、貝類の佃詰、くん製品、調味品を試作し

て業者の指導にあたりたり、また魚の内臓を用いた加工飼料の研究も行っている。「漁撈部門」をみると、ハマチ(ブリの子)を採って、これを御所浦と牛深で養殖しているが、その成果は漁業経営の改善に明るい見とおしを与えるものとして期待されている。

分場もそれぞれに……

牛深分場では、もつばら海洋観測や漁群の探索、漁体測定等を行って、漁船の指導に当たって

お知らせ

郵便物の転送は転居届で

★これまで郵便物は、宛名の方が転居して居れば、その道のベテランが転居先を探し出して、何とか転送していた。しかも、同じ旧住所であった郵便物がくる限り何年となく……

★この労力と時間のロスはバク大なもの。一般の郵便物の配達に悪影響を及ぼしているほど。そこで、さき頃の改正で、今までのように際限なく転送することをやめて、転送は前住所の郵便局に転居届を出してある場合で、その届け出の日から一年以内に限り行う……ということになった。

★……たゞし、受けとつた人が

★……これまで郵便物は、宛名の人転居して居れば、その道のベテランが転居先を探し出して、何とか転送していた。しかも、同じ旧住所であった郵便物がくる限り何年となく……

★……転居届の手続きは、旧住所の郵便局の窓口でやるのが便宜上、市町村役場で転入手続きをする際、同時に転居届ができるように、用紙と受箱を備え付けることになった。

★……とにかく、大切な郵便物のこと。転居したら早く親せき友人、取引先等には新住所を知らせることが肝心。

▼「広報くまもと」の読者の方が転居される場合は、恐れいりますが、広報誌あて新住所をご一報下さい。(係)